



65年ぶりに蘇ったオルガン

21日午前8時30分、杉並区立松庵小学校で行われた2学期終業式にて、65年ぶりに復元された足踏みオルガンの贈呈式が行われました。このオルガンは校内の倉庫で長らく眠っていたところを一昨年に発見され、卒業生が親子2代にわたって修理をしたものです。式の最後には全校児童450人と同窓会の皆さんが、オルガンを修理した大庭美歌さんの演奏に合わせて校歌を斉唱しました。

松庵小学校は昭和27年4月に創立。当時は校舎が無く、10月に校舎ができるまでの期間、近隣の区立高井戸第二小学校と区立高井戸第四小学校に間借りしていました。このオルガンに記されている「贈 松庵小学校殿」「高井戸第二小学校いずみ会 昭27.10.20」という文字から、新校舎に移る際にお別れの品として父母会から贈られたことが推察できます。その数年後に松庵小にピアノが設置されたことで使用頻度が減ったオルガンは、学校の倉庫にしまいこまれ、一昨年の春に発見された際には経年劣化により全ての音が出ませんでした。

松庵小卒業生で同窓会運営委員だった大庭輝夫（おおばてるお）さんは、河合楽器製作所勤務後に独立し、オルガンやピアノ等楽器の調律や修復・修理を行っていました。音の出ないオルガンの存在を知った大庭さんは修理を引き受け、あと1音で完了するところでしたが、昨年7月に志半ばで急逝されました。すると、輝夫さんと同じく楽器修復の仕事をしていた娘の美歌（みか）さんとそのご主人が自ら手を挙げ、輝夫さんの志を引き継いで修理を行い、今年6月に39鍵全ての音が鳴るようになりました。



贈呈式では同窓会運営委員よりオルガンと手作りの緑色のカバーが手渡され、代表生徒が「松庵小の歴史を見守ってきたオルガンを大切にしたい」と感謝の気持ちを伝えました。小学生の頃にこのオルガンを弾いていた同窓会の野田会長は、全校生徒と共に校歌を斉唱し「初めて現役生徒と一緒に歌えてうれしい。涙が出そうになった」と昔を懐かしんでいました。校歌演奏を終えた美歌さんは「一番喜んでいるのはきっと父。今後も生徒と共に時を刻めることがうれしい」とオルガンへの想いを語りました。



今後、この貴重なオルガンは、行事や開校記念日での演奏はもちろん、日常的に生徒に弾いてもらえるように松庵小の総合学習室に展示される予定です。その温かな音色は、聞く人々の心をつないでいく存在となりそうです。



【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-6855（直通）